

1. 研究主題

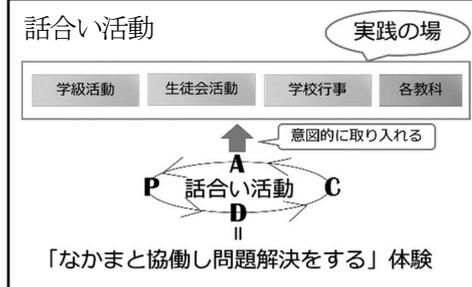
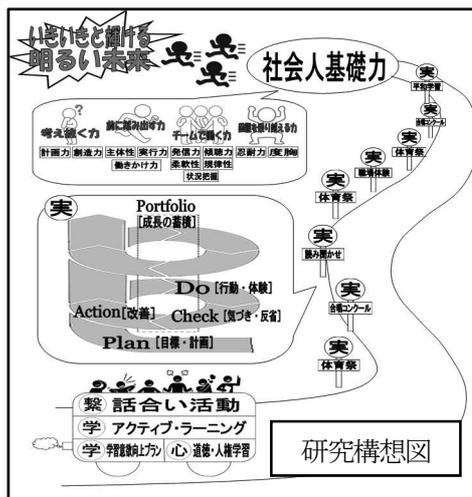
なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成  
～話し合い活動を軸として～

2. 研究の内容

本校の取組を通して生徒に身に付けさせたい力は、大きくは「主体」と「協働」の力である。それをさらに具体的に整理したのが右の図である。これは経済産業省がこれからの職場や社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基盤的能力として提唱している「社会人基礎力」を基にして細かく整理したものである。

「主体」と「協働」の力を身に付けさせるため、本校では特別活動を中心に据え、各教科や総合的な学習の時間、道徳を関連させ、学校生活の様々な場面を実践の場と捉え、実践に向けて話し合い活動を意図的に取り入れることにした。そこでは、実践をより充実させるために、PDCAサイクルを意識することと、なかまと協働し問題解決する体験となることを意識し、話し合い活動を工夫して行っている。この取組を3年間計画的に実践することで、「主体」と「協働」の力を高めたいと考えている。(本校では、この話し合い活動のことをアクションミーティングと呼び、問題解決の取組をアクションチャレンジと呼んでいる。)

3. 実践の内容



(1) 「主体」と「協働」の発信

今年度の最初に行ったことは「主体と協働」を全校生に発信したことである。入学式の校長式辞、全校集会での話、学級や学校の掲示、ポートフォリオの振り返りワークシートなど様々な機会や場面を通して、本校での3年間の生活の中で、「主体」と「協働」の力を身に付けてほしいということを発信し続けている。

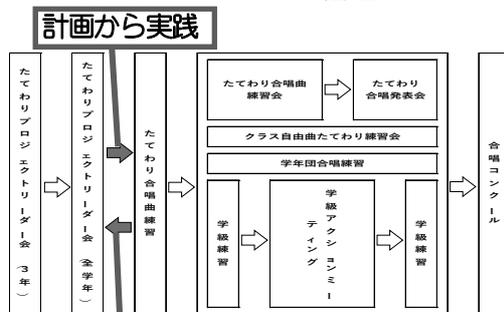
(2) 学級力向上プロジェクト

- 1 学級力アンケートをもとにレーダーチャートを作成
- 2 学級力向上アクションミーティング
- 3 アクションチャレンジ
- 4 「見える化」で評価



アクションミーティングで課題が共有され、アクションチャレンジでの活動が、より生徒主体の活動へとつながった。

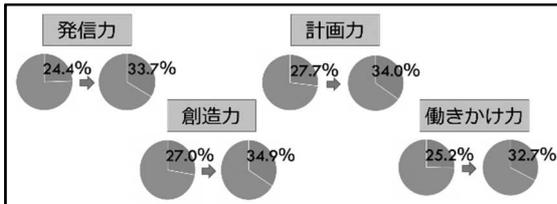
(3) たてわりプロジェクト (合唱コンクール)



体育祭と合唱コンクールの取組で、生徒によるPDCAサイクルが確立された。

4. 研究の成果と課題

生徒に身に付けさせたい力について、生徒アンケートを実施しており、12の身に付けさせたい力のうち9つの項目が向上している。学校生活の様々な場面で、話し合い活動を問題解決に向けて計画し、実行していけるよう仕掛けをしてきた成果だといえる。この取組は特別活動を中心に行ってきたが、各教科での実践の中でも生かされている。



しかし、「主体」と「協働」の力を育成していくことの日常化や、話し合ったことを「練り合う」、「折り合いをつける」といった実践については、まだ、不十分であり、今後改善していきたいと考えている。